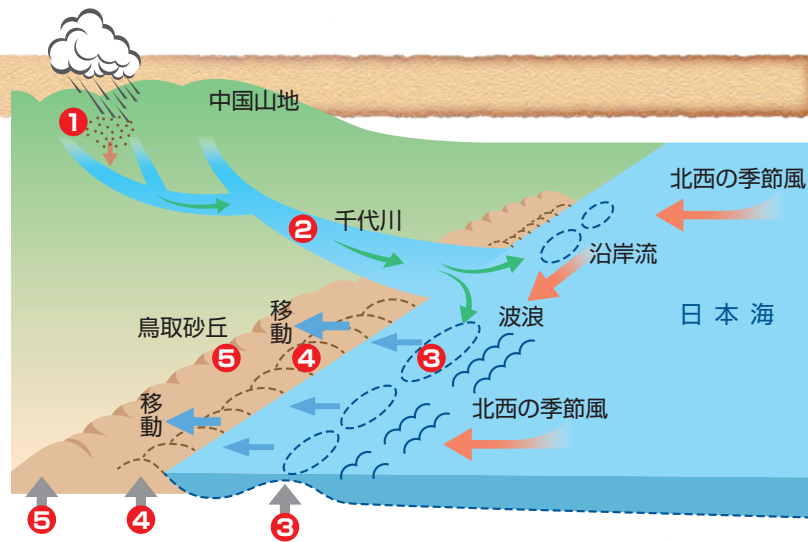


鳥取砂丘ビジターセンター
TEL 0857-22-0021

鳥取砂丘の成り立ち

- 中国山地の岩石が風化して砂となり大雨によって川に出ます。
- 千代川によって大量の砂が日本海に流れ出ます。
- 一度沖合に流された砂は、海の流れによって陸地に近づき浅海底に堆積します。
- 波浪により海岸に砂が打ち上げられます。
- 主に北西の季節風により吹き飛ばされて陸地に運ばれ、内陸側に積もって海岸砂丘となります。



鳥取砂丘の地質



大山倉吉軽石層の露出

砂丘内には火山灰層が露出している所があります。風通しがいい所の砂が飛ばされ、火山灰層が顔を出しています。火山灰層の中には、約5万5千年前に大山から噴出した大山倉吉軽石層が見られます。これらの地層は、鳥取砂丘の形成史を物語る貴重な財産です。



鳥取砂丘は、砂の間に火山灰層が存在しています。鳥取砂丘ビジターセンターでは、実際の火山灰層断面を切り取った標本を展示しています。砂の間に火山灰層が挟まれている様子が観察できます。火山灰層の上に堆積している新しい砂丘が新砂丘と呼ばれています。火山灰層の下に堆積している砂丘は、古砂丘と呼ばれています。

鳥取砂丘の草原化と除草の取り組み

1970年（昭和45年）ごろから砂丘に本来生えていない外来植物が目立ち始め、砂の移動が減少して美しい風紋や砂簾が見られにくくなったり、砂丘本来の美しい景観を損ねたりするなど、砂丘の草原化が深刻な問題になりはじめました。鳥取県・鳥取市では、平成6年から本格的に除草活動を開始し現在も継続しています。除草作業の進展に伴い、今では砂丘本来の姿を取り戻しつつあります。平成16年からはボランティアによる除草も始まり、県民との協働で砂丘を守る取り組みが続けられています。

アダプトプログラム

ボランティア除草の取り組みをより市民レベルの活動に定着させ、持続的なものとするため、平成18年からアダプトプログラム（一定の区域を里親のように責任を持って担当する仕組）を導入実施しています。現在では、次の14団体がこの取組に参画しています。

- アサヒコンサルタント(株)
- サイトウコンサルタント(株)
- 鳥取中央ロータリークラブ
- 東洋交通施設(株)
- 鳥取県
- 日本テレビ
- 梨香会(鳥取りコーグループ)
- 積水ハウス(株)鳥取支店グループ
- 大山日ノ丸証券(株)
- 国立大学法人鳥取大学
- 鳥取市
- 鳥取ローターアクトクラブ
- 山陰合同銀行
- (株)ジャパンディスプレイ

草原化の状況(平成3年撮影)



ボランティア除草の様子

砂丘に暮らす動物



イソコモリグモ
(クモ目コモリグモ科)
鳥根県以北の、主に日本海側の砂浜に生息する大型のクモ。体長は2cmを超える。本種を含むコモリグモ科のクモは母親が卵のうや、ふ化した子グモを保護する習性がある。



カワラハンミョウ
(クモ目ハンミョウ科)
体長15mm内外。全国の河川河原や砂浜海岸に分布していたが、多くの県で絶滅種または絶滅危惧種になっているハンミョウ。体の色と模様は砂地に対して陰べい。



ハマベウスバカゲロウの幼虫
(アミメカゲロウ目ウスバカゲロウ科)
海側の開けた斜面にすり鉢状の巣穴をつくる。体長約1cm。日本海側の限られた海浜砂丘で見られるが、鳥取砂丘には多い。



ハマスズ
(バッタ目ヒバリモドキ科)
海浜植物群落の近くでよく見かける海浜性のコオロギ。隠ぺい色で、背景に溶け込む。

砂丘に生育する植物(砂丘植物)



コウボウムギ(カヤツリグサ科)
4月下旬に花をつける。ムギの名は穂の形から。雌雄異株だが、まれに雌雄を一緒につけている穂も見られる。



ビロードテンツキ(カヤツリグサ科)
8月頃、茎の先に数個の小穂をかたまてつける。茎や葉には白い絹毛が多い。



オニシバ(イネ科)
6～8月頃、花を開く。直立した茎とそこから水平に開いた硬くて細い葉が印象的である。



ハマニガナ(キク科)
真夏には少なくなるが、4～10月頃まで次々に直径2～3cmの黄色い頭花をつける。



ハマヒルガオ(ヒルガオ科)
5～6月頃、アサガオ状のピンク色の花をつける。大きな群落が一斉に咲くさまは、見応えがある。



コウボウシバ(カヤツリグサ科)
4～5月、同じ株内の上部に雄小穂、下部に雌小穂をつける。コウボウムギに比べて小型。



ハマゴウ(クマツヅラ科)
7月頃、青紫色の花をつける。直径5mmほどの黒い果実は強い香気があり、乾燥させて漢方薬として使われる。



ケカモノハシ(イネ科)
7月頃、先端にびったりと密着した2本の穂をつける。茎の節や小穂に毛が多い。



ハマボウフウ(セリ科)
6～7月頃、花を開く。カリフラワータに小さく密な白い花を多数つける。砂丘内に点在する。



ウンラン(ゴマノハグサ科)
8～9月、枝先に黄白色の花を数個つける。多肉でへら形の実をつけた茎が斜めに立ち上がる。



ネコノシタ(キク科)
7月頃、直径2cmほどの黄色い頭花をつける。花を車輪に見立てたハマグルマの名もある。海沿いに群生する。



ハマベノギク(キク科)
9～10月頃、直径3～4cmの紫色の頭花をつける。鳥取砂丘では西側の一部に見られる。

鳥取砂丘周辺の歌碑

鳥取砂丘は文人の感性に問いかける不思議な魅力を秘めています。人知の遠く及ばぬ神秘的な大自然のイメージは、短歌・俳句・推理小説をはじめ、あらゆるジャンルの芸術家たちを惹きつけてやみません。



与謝野晶子歌碑

沙丘踏み さびしき夢に与かれる
われと覚えて涙流るる

昭和5年5月25日、与謝野晶子が夫、寛(鉄幹)とともに砂丘を訪れています。この歌は、6月に軽井沢で命を断った、友人有島武郎への鎮魂歌として詠まれました。



有島武郎歌碑

浜坂の遠き砂丘の中にして
さびしき我を見出でけるかも

大正12年、水脈社主催の自由大学講座の講師として有島武郎が来鳥し、その時に詠んだ歌です。武郎が約1ヶ月後に情死を遂げたこともあって、砂丘を世に広めた1首として知られています。



枝野登代秋歌碑

砂丘をいくつ越えしが波音の
まぢかにきこえて海まだ見えず

現在も鳥取市で発行している短歌誌「情脈」を昭和6年創刊、主催し、短歌人口の底辺拡大に努めました。絶筆に「わがあとに続く足跡限りなく亡びず歌とその足の音」があります。



高浜虚子句碑

秋風や 浜坂砂丘
少し行く

昭和7年に俳誌「ホトギス」主宰の高浜虚子一行が砂丘で吟行会を開催し、その時に詠まれました。